

守山企業景況調査報告書

(第57回)

令和5年10月～令和5年12月期 実績

令和6年1月～令和6年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和5年10月～令和5年12月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業67社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	18	13	72.2%
製造業	13	9	69.2%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	14	73.7%
卸売業	5	4	80.0%
合計	67	50	74.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和5年10月～令和5年12月、見通しを令和6年1月～令和6年3月とし、調査時点は令和6年1月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和5年10月～令和5年12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和5年10月～12月期の調査結果では、売上高、資金繰りの2指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲6.1で前回調査の2.2から8.3ポイント低下した。業種別では、小売業▲53.8（前回調査比▲17.4）、製造業0.0（前回調査比+11.1）、建設業10.0（前回調査比▲12.2）、サービス業21.4（前回調査比+4.7）、卸売業0.0（前回調査比▲50.0）と製造業、サービス業で上昇しその他の業種で低下した。1月～3月期見通しは全体で▲6.5である。

<売上高>

売上高DIは10.0で前回調査の2.3から7.7ポイント上昇した。業種別では、小売業▲30.8（前回調査比▲20.8）、製造業22.2（前回調査比+22.2）、建設業10.0（前回調査比+10.0）、サービス業28.6（前回調査比+36.9）、卸売業50.0（前回調査比▲25.0）であり、製造業、建設業、サービス業で上昇し、小売業、卸売業で低下した。

1月～3月期見通しは全体で▲6.3である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲26.0で前回調査の▲8.9から17.1ポイント低下した。業種別では、小売業▲53.8（前回調査比▲17.4）、製造業▲44.4（前回調査比▲22.2）、建設業▲20.0（前回調査比▲31.1）、サービス業0.0（前回調査比+8.3）、卸売業0.0（前回調査比▲50.0）、サービス業で上昇しその他の業種は低下した。1月～3月期見通しは全体で▲25.0である。

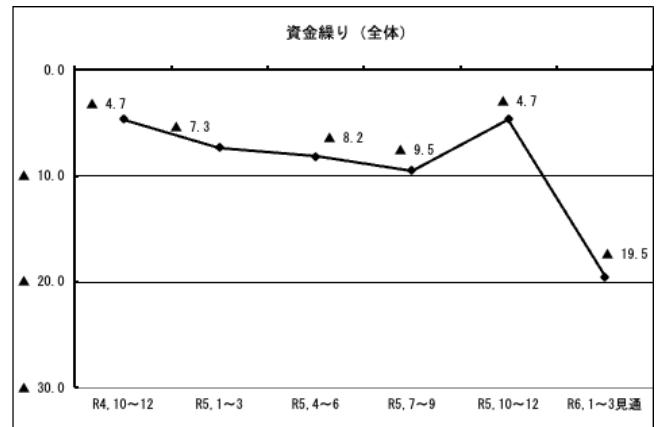
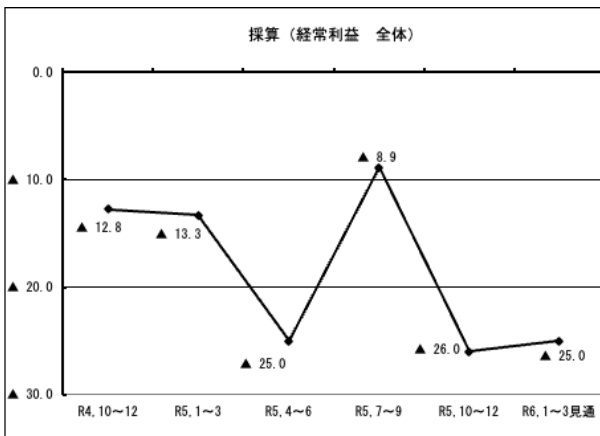
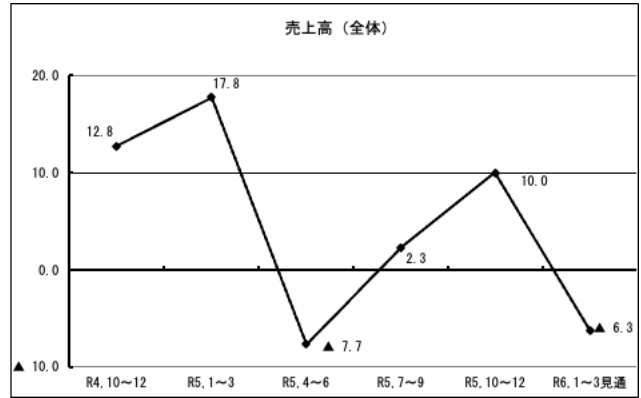
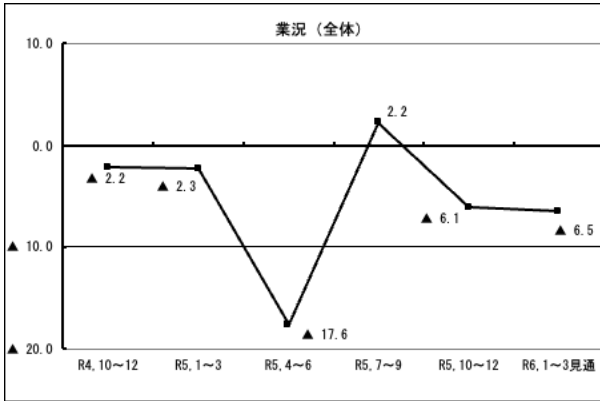
<資金繰り>

資金繰りDIは▲4.7で前回調査の▲9.5から4.8ポイント上昇した。業種別では小売業▲16.7（前回調査比+19.7）、製造業0.0（前回調査比±0.0）、建設業▲12.5（前回調査比▲23.6）、サービス業0.0（前回調査比+10.0）、卸売業33.3（前回調査比+33.3）で小売業、サービス業、卸売業は上昇し、建設業は低下した。製造業は横ばいであった。

1月～3月期見通しは全体で▲19.5である。

<物価高騰、能登半島地震、ダイハツ出荷停止等の影響などの意見>

- ・ 一部商材の入手困難。
- ・ 海運運賃の上昇が気になる。



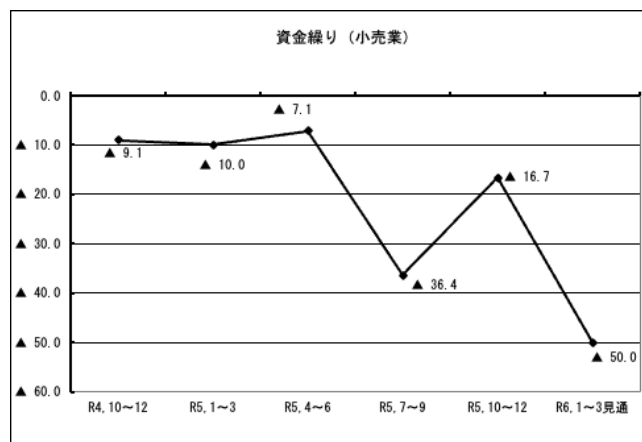
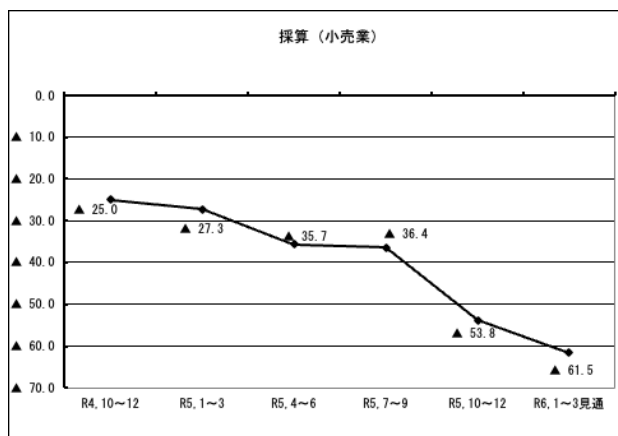
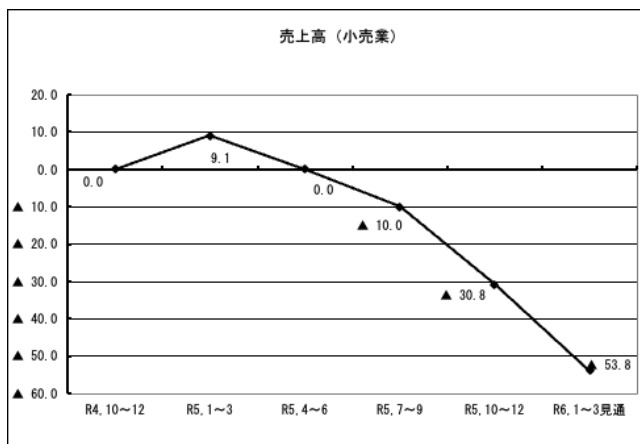
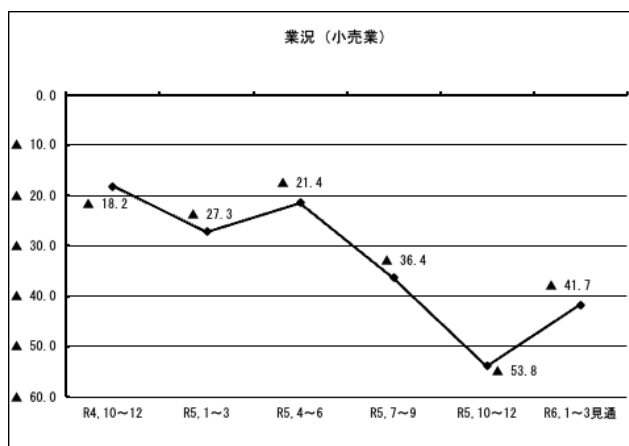
小売業

小売業の業況DIは▲53.8で前回調査に比べて17.4ポイント低下した。2四半期連続でマイナスになり、今回調査ではマイナス50を下回ってしまった。マイナス50を下回るのは令和4年7月～9月の▲50.0以来である。令和6年1月～3月期見通しは▲41.7で少し持ち直すようであるが、先行きが明るいとはとても言えないようである。

売上高DIは▲30.8で前回調査に比べて20.8ポイントの低下であった。これで3四半期連続で低下した。売上がマイナス30を下回るのも令和4年7月～9月期の▲33.3以来であり、コロナ感染症の影響が色濃く出た頃と同様の状態と言える。令和6年1月～3月期見通しは▲53.8とさらに大幅に低下しており相当悲観的である。

採算DIは▲53.8で前回調査より17.4ポイント低下した。令和5年1月～3月期から4四半期連続での低下であり、マイナス50を下回るのは令和4年4月～6月期以来である。令和6年1月～3月期見通しはさらに低く▲61.5であり相当な厳しさが予想されている。

資金繰りDIは▲16.7で前回調査より19.7ポイント上昇した。全体調査では20ポイント近く低下したのだが今回は反転している。しかし、令和6年1月～3月期見通しは▲50.0で資金繰りもかなり厳しい予想になっている。



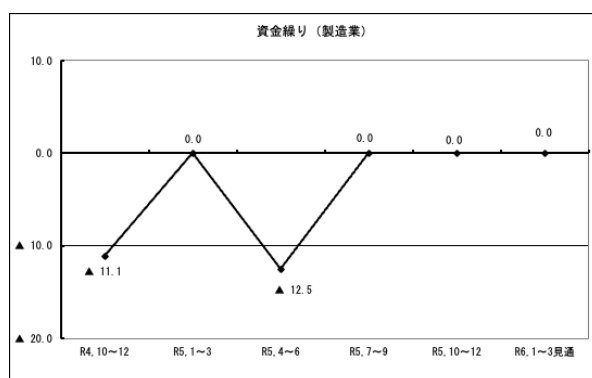
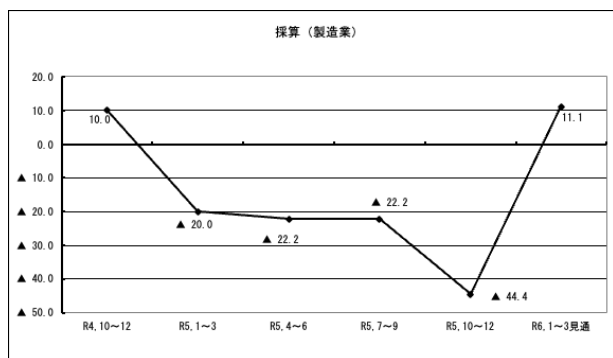
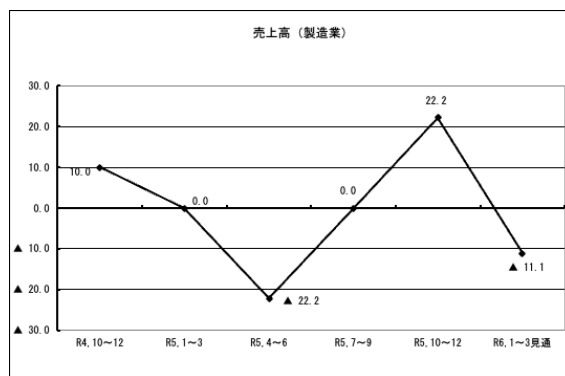
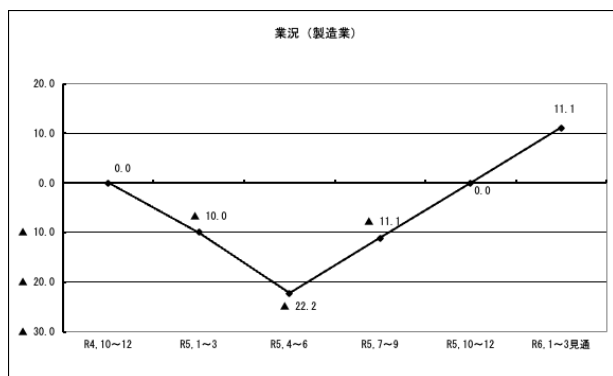
製造業

製造業の業況DIは0.0と前回調査の▲11.1から11.1ポイント上昇した。前回調査に引続き11.1ポイントの上昇である。これで令和4年10月～12月期の0.0に1年かけて戻したことになる。令和6年1月～3月期見通しはさらに11.1ポイント上昇の11.1であり堅調だと思われる。

売上高DIは22.2で前回調査と較べて22.2ポイント上昇した。業況と同じく2四半期連続で上昇しており、2四半期連続で22.2ポイントの上昇である。売上が20ポイントを超えるのは令和4年4月～6月期の33.3以来であり好調だと考えられる。令和6年1月～3月期見通しは▲11.1で一気に33.3ポイント低下を見通しており注意が必要である。

採算DIは▲44.4で前回調査に比べて22.2ポイント低下した。製造業の採算がマイナス40を下回ったのは令和2年10月～12月期の▲54.5が直近なので今回調査は3年ぶりの低い値である。令和6年1月～3月期見通しは11.1と反転大幅上昇となっている。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。2四半期連続で0.0なのでここ半年ほどは資金繰りが安定しているようである。令和6年1月～3月期見通しも0.0なのでそのことを裏付けている。



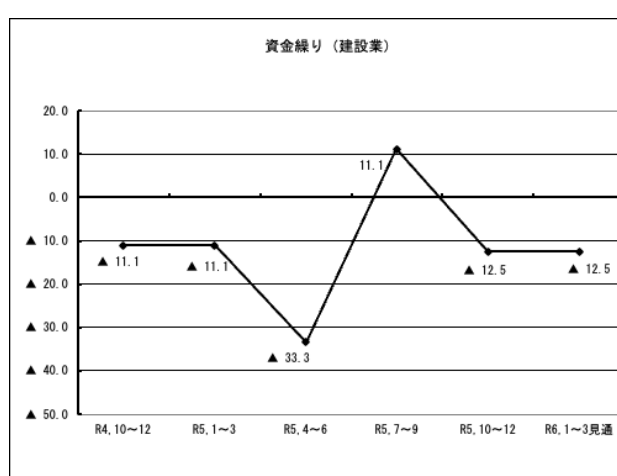
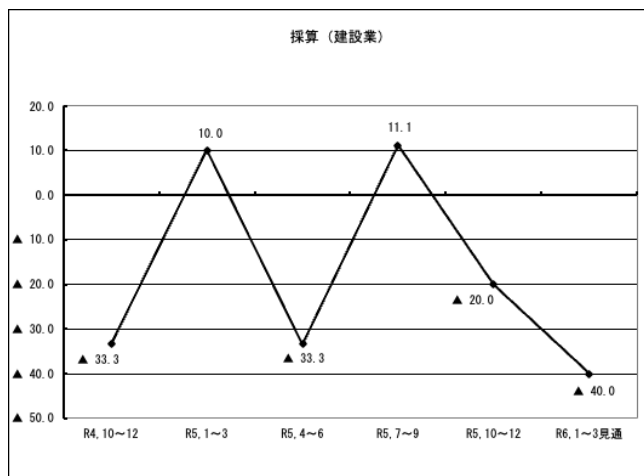
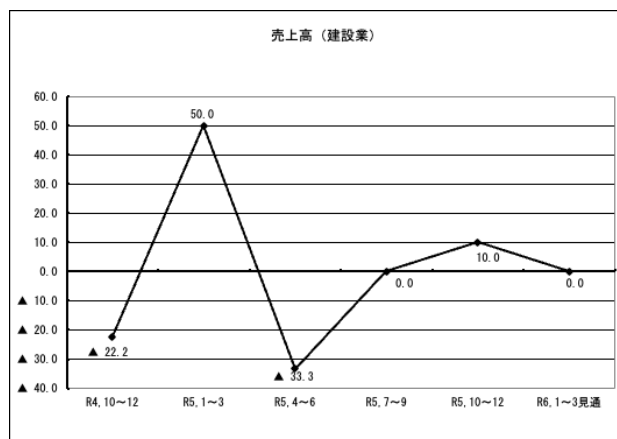
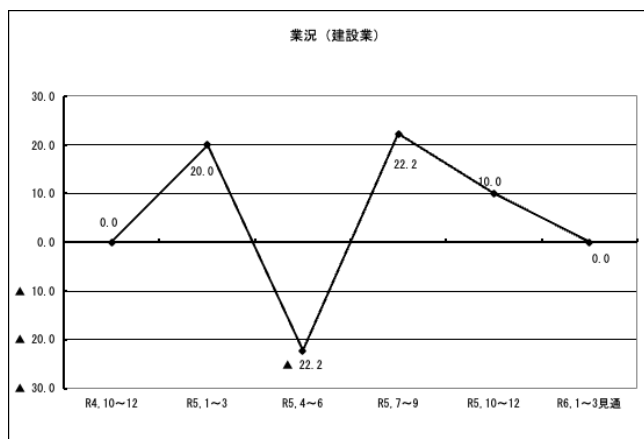
建設業

建設業の業況DIは10.0であり前回調査から12.2ポイント低下した。前回調査では44.4ポイントの上昇と大きく上昇したが今回は下げてしまった。下げたとは言え、プラスの数値なので今回調査期は好調の部類に入るものと思われる。令和6年1月～3月期見通しはさらに低くなり0.0であり、好不調の境目にあると言える。

売上高DIは10.0で前回調査より10ポイント上昇した。前々回調査で▲33.3と大きく下げてから2四半期連続で上昇し今回調査ではプラスの数値まで回復した。令和5年1月～3月期の50.0までは遥かに及ばないもののプラスの数値である。令和6年1月～3月期見通しは0.0なので売上も好不調の境目と見ているようである。

採算DIは▲20.0で前回調査より31.1ポイント低下した。過去1年を見ても上下を繰り返しているのが今回の下げは前々回調査、1年前調査の▲33.3までは達しなかった。令和6年1月～3月期見通しは▲40.0と▲33.3より低くなっているのが相当注意が必要である。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査に比べて12.6ポイント低下した。前回調査11.1、前々回調査が▲33.3であるがその前の2四半期は▲11.1であり、今回調査はそれに近づいたと見ることができる。令和6年1月～3月期見通しも▲12.5で資金繰りは低位ながら安定した数値である。



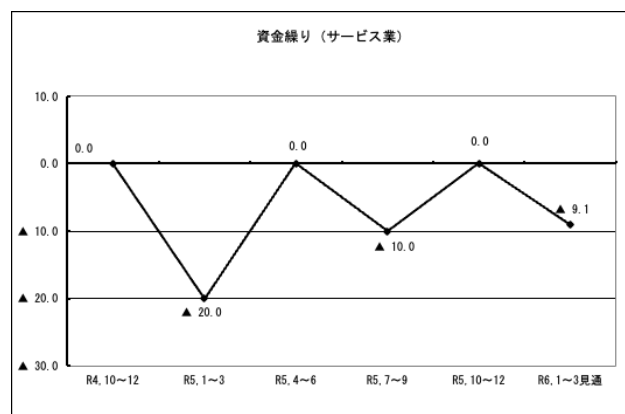
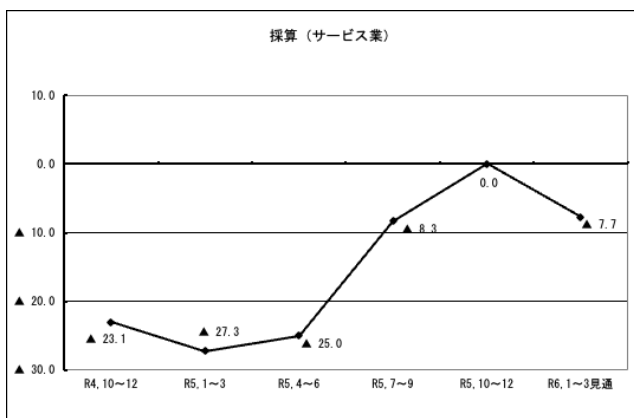
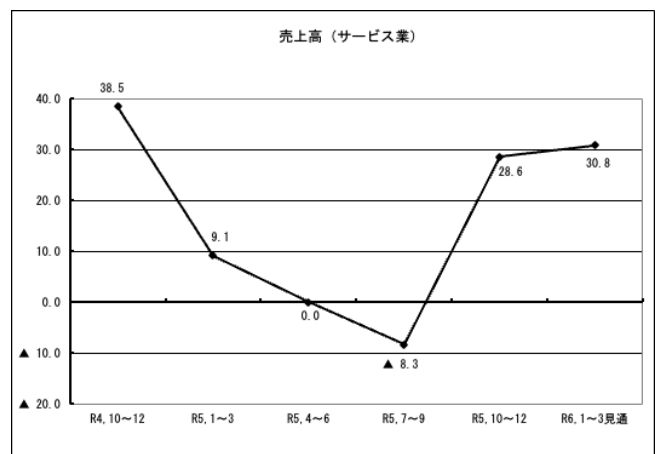
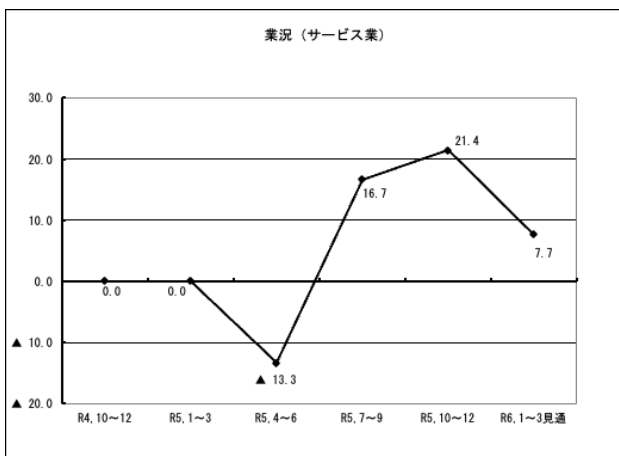
サービス業

サービス業の業況DIは21.4で前回調査に比べて4.8ポイント上昇した。これで2四半期連続での上昇である。サービス業は活況を呈していることを示す数値である。しかし、令和6年1月～3月期見通しは7.7と下げているのでこの好調さに少し影が差すかのようである。

売上高DIは28.6で前回調査より36.9ポイント上昇した。令和4年10月～12月期の38.5を山に3四半期連続での低下から一気に回復を見せた。1年前と同等まではいっていないがサービス業としてはかなり高い数値である。令和6年1月～3月期見通しは30.8とさらに上昇しており、期待できると言える。

採算DIは0.0で前回調査に比べて8.3ポイント上昇した。令和5年1月～3月期を底に徐々に回復してついに採算の良し悪しの境目である0.0まで上昇した。サービス業の採算は常にマイナスの数値であったので採算が相当回復していると考えられることができそうである。しかし、令和6年1月～3月期見通しは▲7.7なので安心はできない。

資金繰りDIは0.0で前回調査より10ポイント上昇した。過去1年では低下と上昇を繰り返すパターンであったので今回もそれに従い上昇した。令和6年1月～3月期見通しは▲9.1で資金繰りが少し低下する見通しとなっている。



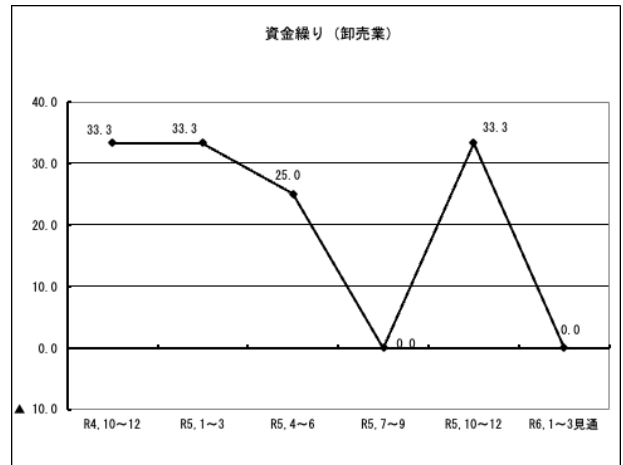
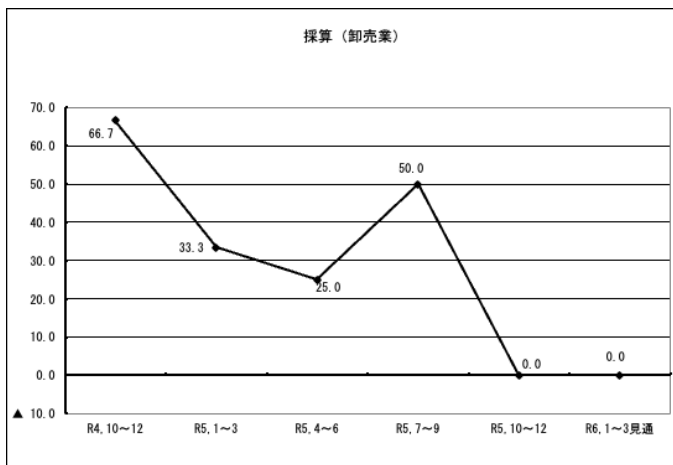
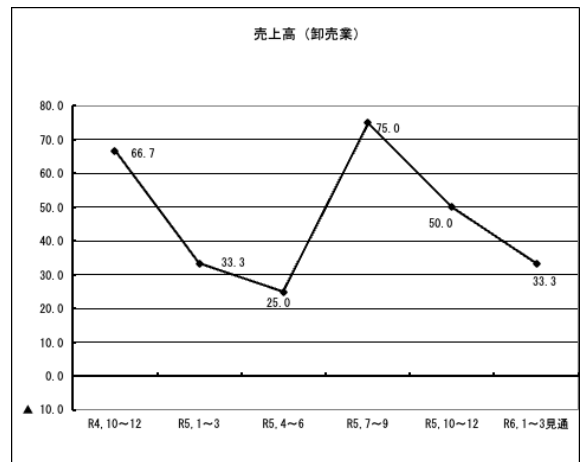
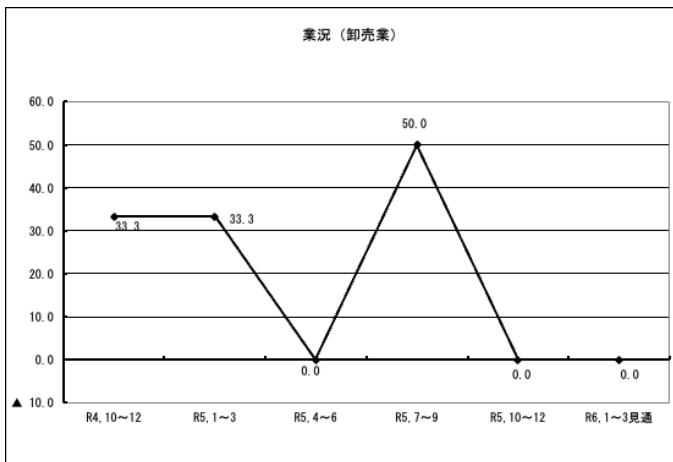
卸売業

卸売業の業況DIは0.0で前回調査と比べて50ポイント低下した。令和5年で2回目の0.0である。前回調査では前々回調査の0.0から50ポイント上昇させたが今回調査では上昇した分そのまま低下になってしまった。令和6年1月～3月期見通しも0.0なので卸売業の業況は厳しさがでてきたのかも知れない。

売上高DIは50.0で前回調査より25ポイント上昇した。前回調査の75.0が非常に高い数値であったのでそこからすると数値としては低下であるが50.0も相当高い数値であり、好調が維持されていることがわかる。令和6年1月～3月期見通しは33.3で今回調査よりさらに低くなる見通しであるが、数値としては悪くない。

採算DIは0.0で前回調査より50.0ポイント低下した。令和4年10月～12月期の66.7からなだらかに採算DIは下っていたが、今回調査でついに0.0まで下ってしまった。売上げが好調の裏で採算は落ちているようである。令和6年1月～3月期見通しも0.0で良い悪いの境目2あるようである。

DI資金繰りDIは33.3で前回調査より33.3ポイント上昇した。前回、前々回の調査で0.0、25.0と数値が変動したが今回は33.3で1年前と同じ数値に戻っている。ただ、令和6年1月～3月期見通しは0.0と下げているので安定した資金繰りではないのかも知れない。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 6.1	▲ 6.5	10.0	▲ 6.3	▲ 26.0	▲ 25.0
小売業	▲ 53.8	▲ 41.7	▲ 30.8	▲ 53.8	▲ 53.8	▲ 61.5
製造業	0.0	11.1	22.2	▲ 11.1	▲ 44.4	11.1
建設業	10.0	0.0	10.0	0.0	▲ 20.0	▲ 40.0
サービス業	21.4	7.7	28.6	30.8	0.0	▲ 7.7
卸売業	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	10.2	10.4	▲ 20.0	▲ 26.5	4.3	2.2
小売業	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 46.2	▲ 46.2	0.0	0.0
製造業	11.1	33.3	▲ 22.2	0.0	0.0	▲ 11.1
建設業	22.2	22.2	0.0	▲ 10.0	11.1	11.1
サービス業	14.3	0.0	▲ 14.3	▲ 38.5	▲ 7.1	0.0
卸売業	75.0	75.0	0.0	0.0	50.0	33.3

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 4.7	▲ 19.5	▲ 2.6	▲ 5.9	▲ 2.6	▲ 5.7
小売業	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 22.2	▲ 20.0	▲ 20.0
製造業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	0.0	▲ 9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

過去からの動向

